

# 近畿能開大京都校で「ポリテックビジョン」開く

## 2月14、15日 — ものづくりを広く発信

2月14日と15日に、近畿職業能力開発大学校（近畿能開大）京都校で、「ポリテックビジョンin舞鶴2020」が開催されました。

このポリテックビジョンは、毎年開催され、近畿能開大の学生が、教育訓練で修得した幅広い知識や技能、技術を活かしながら、アイデアを取り入れた機器等を製作し、展示や成果発表などが行われる学校を挙げての催しです。

14日は、学生らが約1年をかけて取り組んだ成果を披露する「総合制作発表（全11テーマ）」と「開発課題発表（全3テーマ）」が中心で、それぞれが製作した物の目的や過程などについて、様々な工夫をこらした発表が行われました。また、この日は、自動車業界で活躍する卒業生の「OB講演」と学生が精密な鋼材加工によって作った“コマ”、黒い線に沿って走らせるためにプログラミングした“レース用ロボット”で

対戦する「ものづくりコンテスト」も同時開催されました。

なお、15日の閉会時には、「総合制作発表」の発表・展示の中で、“コーヒーを自動でいれ提供する”「産業用おもてなしロボット」が今年の最優秀を受賞しました。



学生の成果発表（2月14日：近畿能開大京都校）

## クロス情報交換会を初開催 府内8商工会議所から89人が参加

2月11日、京都商工会議所で、府内の8商工会議所が参加して「商工会議所クロス情報交換会」が初めて開催されました。これは、京都商工会議所が入る「京都経済センター」が昨年3月に開館



初めて開催された「商工会議所クロス情報交換会」  
（2月11日：京都商工会議所）

したことや、8商工会議所の職員同士が、日常の業務や事業をそれぞれが共有し、新しい展開や連携の確認等を目的として開催されたものです。

当日は、89人が参加。舞鶴商工会議所からは、西山専務理事など8人の職員が参加しました。

はじめに行われた講演会では、経済関係を中心に活躍中の小説家真山仁氏が、「世界の中の日本企業はどう生き残るべきか」と題して、日本と外国の価値観の違いを説明。「日本人は『共通』部分を探すが、外国人は『違い』を探す。企業も同じで、これまでの価値観を一度リセットし、色々な方向に目を向けることが大切である」との指摘がありました。

また、交流会では、地域経済等の情報交換を通じて、商工会議所の役割を再確認することができました。